

<環境省ニュース>

環境研究総合推進費による 平成25年度新規研究課題の決定について

環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室

1. 環境研究総合推進費の概要

環境研究総合推進費(以下、推進費)は、地球温暖化の防止、循環型社会の実現、自然環境との共生、環境リスク管理等による安全の確保など、持続可能な社会構築のための環境政策の推進にとって不可欠な科学的知見の集積および技術開発の促進を目的とした政策貢献型の競争的研究資金です。

推進費は、環境省が必要とする研究テーマ(以下、行政ニーズ)を提示して公募を行い、広く産学民官の研究機関の研究者から提案を募り、評価委員会および分野ごとの研究部会の審査を経て採択された課題を実施しています。

また、環境省がトップダウン的に研究テーマや研究リーダー等の大枠を決めたうえで、研究チームを競争的に選定するシステム(戦略的研究開発領域)を設けるなど、行政ニーズに立脚した戦略的な研究開発を強力に推進します。

推進費による研究開発成果は、これまでIPCC等への研究成果提供による国際貢献、廃棄物焼却施設等のダイオキシン類排出量の大幅削減、石綿(アスベスト)含有廃棄物の処理促進、家電リサイクル等における貴金属等の有用資源回収率向上、生態系保全に資する保護地域等の設定、希少植物の絶滅リスク低減、黄砂飛来予報の精度向上、医薬品・化粧品等による水環境汚染の防止、等に活用されています。

平成25年度の推進費では、一般会計を財源とする採択枠(以下、一般枠)は環境政策の推進のため

に、東日本大震災復興特別会計を財源とする採択枠(以下、復興枠)は被災地域の復旧・復興および被災者の暮らしの再生のために設けております。

2. 平成25年度新規研究課題の採択について

推進費では、「環境研究・環境技術開発の推進戦略について」(平成22年6月中央環境審議会答申)(以下、推進戦略)の重点課題ごとに行政ニーズを掲げて公募を行い、外部専門家・有識者等からなる環境研究企画委員会(委員長：鈴木基之東京大学名誉教授)による審査(書面評価およびヒアリング)結果を踏まえ採択課題を決定することとしています。

平成25年度新規研究課題については、昨年10～11月に公募を行い、環境研究企画委員会の審査結果を踏まえ、応募総数384課題のうち、一般枠では、1戦略研究プロジェクト(16課題で構成)および43課題、復興枠では1課題を採択することとしました(表1参照)。

3. 研究の対象分野

平成25年度に分野を再編し、統合前の旧制度に由来する7分野(7分科会)から、「環境研究・環境技術開発の推進戦略について」(平成22年6月中央環境審議会答申)の構成に沿った、以下の5分野(5部会)構成としました。

- ・全領域共通・領域横断

長期的な国家ビジョンの中でのあるべき社会(持続可能社会)に係る研究、複数領域に同時

表 1 推進費(一般枠)の応募課題数および採択課題数

研究領域	研究対象分野 ^{※5}	応募課題数	採択課題数
戦略的研究開発領域 ^{※1}	環境省が設定	1 プロジェクト (19課題)	1 プロジェクト (16課題)
環境問題対応型研究領域 ^{※2}	(1)全領域共通・領域横断 (2)脱温暖化社会 (3)循環型社会 (4)自然共生型社会 (5)安全が確保される社会	166課題	19課題
革新型研究開発領域 ^{※3}		43課題	10課題
循環型社会形成推進研究 ^{※4}		141課題	14課題
一般枠 計		1 プロジェクト (19課題) + 350課題	1 プロジェクト (16課題) + 43課題

推進費(復興枠)の応募課題数および採択課題数

研究領域	研究対象分野	応募課題数	採択課題数
環境問題対応型研究領域 ^{※2}	上記(1)(2)(3)(4)(5)	14課題	1 課題
革新型研究開発領域 ^{※3}		1 課題	0 課題
復興枠 計		15課題	1 課題

※1 「戦略的研究開発領域」：先導的に重点化して進めるべき大規模な研究プロジェクト又は個別研究の統合化・シナリオ化を図るべき研究プロジェクトで、環境省が大枠を提示し、プロジェクトを構成する研究課題を公募するもの。複数の研究課題で構成される。

※2 「環境問題対応型研究領域」：個別又は複数の環境問題の解決に資する研究。

※3 「革新型研究開発領域」：若手研究者を対象とした、特に新規性・独創性・革新性の高い環境研究、または、先進的特定研究テーマに係る最新成果を評価・統合する研究。

※4 「循環型社会形成推進研究」：廃棄物の適正処理および循環型社会の構築に資する技術に係る研究。

※5 「研究対象分野」は、平成24年度までの旧7分野から、平成25年度より、推進戦略の構成に沿った5分野(上表の(1)～(5))に再編しました。

に寄与する Win-Win 型の研究開発、複数領域間のトレードオフを解消する研究開発 等

・脱温暖化社会

低炭素で気候変動に柔軟に対応するシナリオづくり、地球温暖化現象の解明と適応策に係る研究開発、低炭素化技術を社会実装するための最適パッケージ・システム化の評価・検討 等

・循環型社会

3R・適正処理の徹底、熱回収効率の高度化、レアメタル等の回収・リサイクルシステムの構築に係る研究開発 等

・自然共生型社会

生物多様性の確保、国土・水・自然資源の持続的な保全と利用に係る研究開発 等

・安全が確保される社会

化学物質等の未解明なリスク・脆弱性を考慮したリスクの評価・管理、健全な水・大気の循環に係る研究開発 等

4. 採択課題の概要

採択が決定した平成25年度新規研究課題の課題名、研究代表者、実施研究機関は表2のとおりです。また、各新規研究課題の概要については、環境省ウェブサイトの中の報道発表資料のページに掲載しておりますので御覧下さい。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=16882>

5. 公 募

公募の予定は、推進費ホームページ(<http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/index.html>)、環境・科学関係ウェブサイト等にてお知らせします。

9～10月に公募要項を公表し、期限を設け、課題提案を受け付けています。

地環研研究者の皆様におかれましても、積極的な応募をお願いいたします。

表2 環境研究総合推進費 平成25年度新規研究課題一覧

■平成25年度新規課題【一般枠】

課題番号	課 題 名	研究代表者	実施研究機関
戦略研究プロジェクト専門			
S-11	持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究—地球の限られた資源と環境容量に基づくポスト2015年開発・成長目標の制定と実現へ向けて—	蟹江 憲史	東京工業大学
全領域共通・領域横断			
1-1301	環境負荷低減とコスト削減の両立を実現する LCA 導入システムの開発	岡本 拓	広島県立総合技術研究所
1-1302	プラットフォーム化を目指した日常行動に関わる LCA データの整備と教材開発	栗栖 聖 (長谷川 聖)	東京大学
1-1303	生態系サービスのシナジーとトレードオフ評価とローカルガバナンスの構築	齊藤 修	東京大学
1-1304	「レジリエントシティ政策モデル」の開発とその実装化に関する研究	竹内 恒夫	名古屋大学
1RF-1301	日本およびアジアの鉄鋼産業の中長期的な低炭素化実現へ向けた研究	倉持 壮	財地球環境戦略研究機関
脱温暖化社会			
2-1301	コジエネレーションネットワーク構築のための CO ₂ 削減・経済性・政策シナリオ解析	近久 武美	北海道大学
2-1302	再生可能エネルギー技術の価値評価と導入戦略のための基盤構築	本藤 祐樹	横浜国立大学
2-1303	将来の温暖化条件下でのフロン対策強化によるオゾン層の脆弱性回避に関する研究	秋吉 英治	独立行政法人 国立環境研究所
2-1304	温暖化予測に関わる北極域土壌圏の炭素収支の時空間変動	串田 圭司	日本大学
2RF-1301	バイオマスモニタリングのための現地サンプリング手法の開発	加藤 顕	千葉大学
2RF-1302	温室効果ガスおよび短寿命気候因子 (SLCP) 緩和策が引き起こす環境影響の能動的評価	中島 映至	東京大学
2RF-1303	低炭素と経済活性化を両立する生活・行動様式と地域環境デザイン方策の提案	平野 勇二郎	独立行政法人 国立環境研究所
2RF-1304	水蒸気量変動の気候変化に関する研究	藤田 実季子	独立行政法人 海洋研究開発機構
循環型社会			
3K133001	製品に含まれる化成品および不純物に由来する有害廃棄物対策と循環方策構築に向けた研究	滝上 英孝	独立行政法人 国立環境研究所
3K133002	水素を利用したチタン合金切削屑の高効率再資源化技術の実用化研究	近藤 勝義	大阪大学 接合科学研究所
3K133003	災害廃棄物分別土砂・篩下残渣の物性評価と、戦略的有効利用に向けた基準化	勝見 武	京都大学 地球環境学堂
3K133004	バイオリアクターによる廃二次電池溶解処理液からの Mn, Ni, Co 同時回収	大橋 晶良	広島大学 工学研究院
3K133005	溶媒抽出技術を基盤とする電子機器廃パネルからの環境保全型レアメタル循環システムの構築	馬場 由成	宮崎大学工学部
3K133006	臭化銅溶媒系を用いた使用済み電子機器からの貴金属・レアメタル回収システムの開発	松野 泰也	東京大学 大学院工学系研究科
3K133007	焼却排ガス処理薬剤や飛灰処理キレートが埋立管理に与える影響と対策研究	樋口 壯太郎	福岡大学工学部
3K133008	光エネルギーを利用した廃液からの触媒的貴金属分離・回収技術の開発	木田 徹也	九州大学 総合理工学研究科
3K133009	廃電気電子機器中の難燃剤の環境挙動予測評価による適正管理技術の確立に関する研究	羽成 修康	独立行政法人 産業技術総合研究所
3K133010	生物検定法による塩素化／臭素化ダイオキシン類測定評価法の確立と高度利用に関する研究	鈴木 剛	独立行政法人 国立環境研究所
3K133011	プラスチック等が混入した弾性廃棄物地盤の力学および環境特性に関する研究	山脇 敦	財産業廃棄物処理事業 振興財団

表2 環境研究総合推進費 平成25年度新規研究課題一覧(続き)

■平成25年度新規課題【一般枠】

課題番号	課 題 名	研究代表者	実施研究機関
3K133012	微生物および粉砕・選鉱プロセスを導入した廃電子基板等からの有用金属回収システムの構築	宮田 直幸	秋田県立大学 生物資源科学部
3J132001	廃棄物ガス化発電技術の高効率化の実証	田頭 成能	株式会社神鋼環境 ソリューション
3J132002	無電解ニッケルめっき廃液のリサイクルシステム構築	溝上 利文	コア株式会社

自然共生型社会

4-1301	親潮沿岸域のゼニガタアザラシと沿岸漁業の共存に向けた保護管理手法の開発	桜井 泰憲	北海道大学
4-1302	再導入による希少鳥類の保全手法の確立に関する研究	永田 尚志	新潟大学
4-1303	農業による水田生物多様性影響の総合的評価手法の開発	林 岳彦	独立行政法人 国立環境研究所
4-1304	島嶼―サンゴ礁―外洋統合ネットワーク系動態解明に基づく石西礁湖自然再生への貢献	灘岡 和夫	東京工業大学
4RF-1301	阿蘇を構成する植生の蒸発散の比較研究：草原の維持は水資源涵養に寄与するか？	宮沢 良行	九州大学
4RF-1302	環境 DNA 技術を用いた生物分布モニタリング手法の確立	土居 秀幸	広島大学

安全が確保される社会

5-1301	光化学オキシダント生成に関わる未計測 VOC の探索	梶井 克純	京都大学
5-1302	適切な農薬の後作物残留リスク評価に基づく実効的な管理技術の開発	清家 伸康	独立行政法人 農業環境技術研究所
5-1303	日本型農業環境条件における土壌くん蒸剤のリスク削減と管理技術の開発	小原 裕三	独立行政法人 農業環境技術研究所
5-1304	湖沼のブラックボックス負荷「底泥溶出」の定量評価に関する研究	今井 章雄	独立行政法人 国立環境研究所
5-1305	母児 POPs 曝露量の質問票および遺伝要因からの推定に関する研究	森 千里	千葉大学
5-1306	日本海および周辺域の大気・海洋における有機汚染物質の潜在的脅威に関する研究	早川 和一	金沢大学
5-1307	風力発電等による低周波音・騒音の長期健康影響に関する疫学研究	石竹 達也	久留米大学
5RF-1301	持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発	柳 哲雄	九州大学
5RF-1302	環境ナノ粒子を介した有機汚染物質の人体曝露に関する研究	鳥羽 陽	金沢大学
5RF-1303	水銀汚染土壌および底質中のメチル水銀の簡易・迅速・高感度な分析システムの開発	児玉谷 仁	鹿児島大学

■平成25年度新規課題【復興枠】

課題番号	課 題 名	研究代表者	実施研究機関
5Z-1301	セシウムの動態解析に基づく除染シナリオの構築と磁気力制御型除染法の開発	秋山 庸子	大阪大学